

平成30年度 第2回学校関係者評価委員会 [記録]

[日 時] 平成31年3月13日(水)13:30～15:10

[場 所] 明成高等学校 会議室

1 挨拶

(1) 朴澤泰治理事長

冒頭に委員の方々への御礼の言葉があり、川平地区全体の再生ということで法人全体の資金を活用して校舎建替えを行っていること、学習指導要領改訂に併せて5年後の完成を目指して高大連携を強化した教育内容を検討しているとの話がなされた。

(2) 佐々木稲生校長

冒頭に委員の方々への御礼の言葉があり、本校の活動状況(卒業生の状況、入試状況、他校との競争、学校アンケートの評価など)の紹介がなされた。さらに、少子化に対する定員確保に向けた方策として、①魅力と特色の見直し、②新校舎建設、③系列校の仙台大学との7年一貫指導と活用が提示され、委員の方々からご意見を頂戴したいとの話がなされた。

2 自己評価結果について(生徒及び保護者のアンケート結果と考察より)

(1) 総括(狩野参与)

(2) 各部から

- ① 募集業務部(和山部長)
- ② 教務部(本田部長)
- ③ 進路指導部(新妻部長)
- ④ 生徒指導部(長澤部長)

(3) 各科・コースから

- ① 調理科(高橋学科長)
- ② 介護福祉科(狩野学科長)
- ③ 普通科 情報表現コース(三浦参与)
- ④ 普通科 デザインアートコース(佐藤教頭)
- ⑤ 普通科 総合コース(太田参与)
- ⑥ 普通科 健康スポーツコース(田中参与)

上記の順番でそれぞれの担当者から発表があった。

内容については、アンケート結果を踏まえた次年度の課題と教育活動の説明が行われた。

調理科の説明の際に評価委員の方々へ生徒が作った「お菓子」が提供され説明があった。

3 評価委員から

○内馬場父母教師会会長

多くの卒業生が各方面で活躍している姿を見ると非常に感動する、是非そのような生徒をこれからも育ててほしい。宮城県内だけではなく他県からも入学させたいとの希望が多く聞かれる。

○對馬松操会副会長

仙台大学との協同することを楽しみにしている。

○菅原東北割烹研究会会長代行

卒業後に高校3年間の学びが発揮されている生徒が多く、辛抱強く高校3年間を頑張してほしい。そのことを中学生の保護者に宣伝していただきたい。

○酒井桜ヶ丘学区連合町内会会長

地域の様々な行事における本校生の手伝いや女子バスケットボール部の清掃活動に対して感謝している。介護福祉科のケア研究会での発表など生徒や授業でのいろいろな取り組みや活躍を感じる、高校と協力しながら文教地区としてふさわしいまちづくりを目指していきたい。

○蓬田アクアビットファクトリー(株)代表取締役

人材の育成を強化していくには、高校3年間だけではなく高大連携を行い7年教育の実現をしてほしい。生徒の満足度を上げるためには授業の内容だけではなく自己肯定感を高めることが重要と感じる。中学生に対して高校だけではなく大学での取り組みも見てもらい7年間の流れを伝えられると良いのではと感じる。

○渡辺七十七銀行荒巻支店支店長

当行では10名の卒業生が中堅どころとして活躍している。その中の1名が資産運用の部署に抜擢され頑張っている。銀行では環境整備が営業利益に繋がっているので学校でも是非行ってみたいとの意見があった。

○田中桜丘中学校校長

中学生の保護者への情報量が少ないことや中学生が将来を見据えた進路決定ができない状況があるので、オープンスクールの実施が重要である。高大連携を行い7年教育のアピールが必要と感じる。

○遠藤仙台大学学長

新学科設立の取り組みや教育方法などの現状が話され、高校との高大連携や7年教育について大学の人的資源の活用や高大それぞれの授業を見学し合うことが必要との意見があった。

※村田桜丘小学校校長 欠席

[その他]

理事長より募集業務部に対する感想と事前の確認が必要という話がなされた。また、学長からも同様の意見があった。

4 謝辞(中村副校長)